

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

廃校寸前だった 能勢高校のキセキ

豊能郡能勢町にある大阪府立能勢高校。全校生徒150人あまりのこの小さな高校が、2015年度からの5年間、有名校が名を連ねるSGHに指定された。決定の瞬間には地域住民が諸手を挙げて喜んだという。一方、3年以上定員割れの続いた学校は再編整備の対象となり、廃校の危機が現実的に…。町と学校が丸一となって取り組む、学校改編の道を追った。



海外姉妹校マレーシアの高校生が来日したときの様子。毎年、マレーシアへ海外研修に赴き、現地の高校生や大学生との交流が続いている。

SGHとは
(Super Global
High School)

2014年度から文部科学省が開始した事業で、大学や国際機関と連携してビジネスや海外フィールドワークなど、グローバルな社会課題を生徒自身で発見・解決し、国際的に活躍できる人材育成を図る高校および中高一貫教育校を「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」に指定し、質の高いカリキュラムの開発・実践を推進する。現在、全国で123校(府下12校)が指定されている。

人口減少が深刻な 能勢の現状

大阪府の最北部に位置する能勢町は、周りを山に囲まれた農村地域である。人口1万人ほどの小さな町。人口減少が著しく、日本創成会議のデータによる「消滅可能性都市」にも含まれている。特に深刻なのが若者層の流出による少子高齢化だ。2014年には重要な観光資源であった府民牧場が閉鎖され、今年4月、町の小学校5校・中学校2校は、跡地に建てられた施設一体型小中一貫教育校「ささゆり学園」に統廃合された。また、能勢・豊能地域で唯一の高校である能勢高校は、10年連続で定員割れを起している。地元の子どもが全校生徒の8割を占めるため、能勢の人口減少に伴い、能勢高校の生徒数もまた減少の一途を辿っている。



授業の一環で、奈良・東大寺において外国人観光客に英語で観光案内をする1年生。

SGHを獲得した 10年間の挑戦

人口減少が続く能勢にこそ、グローバルな視点を持つ人材が必要」と話すのは、同校教頭の内田さん。地域活性を担う人材を育てようと、思いきった教育を打ち出している。

2004年、同校は普通科と園芸科を「総合学科」に統合し、進学を目指す人文・理数や国際・情報、福祉系、農業系といった4系列を設置、多彩な科目選択が可能になった。同時に大阪府で初の連携型中高一貫教育をスタート。以来、小中学校との



モンゴルでの養蜂調査。



フランス人講師による国際理解の授業。外部講師による授業も多彩。

※ユネスコスクール…ユネスコが国際理解教育を実践している学校を認定する。認定校は、世界中のユネスコスクールの生徒・教員と交流し、情報や体験を共有できる。

交流授業、留学生の受け入れや海外研修、農業での商品開発、府で唯一の養蜂の授業など、特色あるプログラムを次々に展開。2010年には国際理解への教育を評価され、ユネスコスクールに認定された。実践型の教育は生徒の感性にも響いている。国際問題に関心を示す生徒や、海外研修をきっかけに能勢の魅力に改めて気づき、地域活性化を学ぶ大学に進学を希望する生徒も現れた。全国のトップ校と肩を並べてSGHになったのは、こうした10年間の取り組みの結実だ。



大阪梅田大丸での販売実習。能勢高校の農場生産物である粟や黒米、はちみつに加え、地元企業などと連携して製造したジャムなどを販売。生産から加工販売までの6次産業化を学んでいる。



※6次産業化…「1次産業(農林漁業)」、「2次産業(農産物の加工)」、「3次産業(流通・販売)」を融合させることで、地域活性化を図ろうとするもの。

廃校を免れ 豊中高校の分校へ

教育内容が充実する反面、生徒の減少には歯止めがかからない。学校再編は避けられず、府と町の教育委員会は、廃校も視野に昨年からの協議を重ねてきた。能勢町への移管も検討されたが、財政難の町による運営は困難と判断。そして今年11月、同校は再来年をめぐりに豊中高校の分校となること

が決定した。7年前、定員割れが続いていた状況に廃校の危機を覚えた町民が中心となって



かつては乳牛などの家畜も飼育していたという能勢高校の農地は5ヘクタール。野菜や果樹、米などを栽培し、地元の物産センター等で販売。

「能勢高校を応援する会 まちぐるみ応援団」を結成。能勢高校の存続は町を守ることでもあると、府議会などに能勢高校の存続を訴え続けた会長の西田さんは、「ひとまず、“残った”という結果に安堵した。一方で、学力の高い豊中高校と今後、双方にどうプラスとなっていくのか不安もある。今の入学試験はレポートと面接のみだが、今後は変わらなければならないだろう。能勢の子に緊張感をもたらさし、学力向上にもつながるよい機会。町外からの生徒も増えるかもしれない。楽しみだ」と話す。2018年、能勢高校は変わる。同じくSGHに取り組む豊中高校との連携で、特色ある教育はさらに充実するだろう。内田さんは、「豊中高校と当校、お互いになものがある。生徒が豊かな体験ができるよう、連携してWin-Winの関係を築きたい」と今後を期待をかけている。

■ 大阪府立能勢高等学校
大阪府豊能郡能勢町上田尻580
創立1954年
生徒数154名(2016年11月現在)

